

## 競技上の注意

### 1 競技規則

令和5年4月1日より実施分の全国障害者スポーツ大会競技規則に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルールによるものとする。その他は、大会申し合わせ事項によるものとする。

[申し合わせ事項]

1. タイムアウトは適用しない。
2. 促進ルールは適用しない。

### 2 競技方法

- (1) 全試合1試合、11本先取、5ゲームスマッチとする。
- (2) 原則として、同一の障害区分、性別で対戦を行うが、参加人数の少ない区分等については、異なる障害区分や性別との対戦を行う場合がある。ただし、順位の設定はそれぞれの障害区分、性別で行うこととする。

### <特別ルール>

- (1) 肢体不自由者及び知的障害者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手の手首より先）がコートに触れても失点としない。ただし、コートを支えて打ったり、テーブルを動かしてはならない。
- (2) 身体的理由により主審の承認を得、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規制を緩和することができる。また、知的障害についても主審が対戦者の不利にならないと認めた場合、サービスの規制を緩和することができる。
- (3) 車いす使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際、ボールが①レシーバーのコートに触れた後ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、レットが宣告される前に打球した場合は、そのまま有効となる。
- (4) 知的障害や精神障害が原因と認められる試合の中断があった場合、1マッチの中断時間は最大10分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判、監督、介護者等が競技者に進行を促す言葉をかけたリ競技者に触れたりすることができる。

### 3 その他

- (1) 参加者は、受付時に配布した指定のゼッケンを必ず背面につけること。